

## 第2回特別展 帰ってきた光太夫—ラクスマンの来航と日露会談—

中国や韓国とは古来から関係を築いてきた日本ですが、もうひとつの隣国であるロシアとの出会いはいつだったのでしょうか。

ロシアに漂流したことで有名な大黒屋光太夫ですが、実は、光太夫が帰国した「ラクスマンの来航」という事件がきっかけとなって、日本とロシアがはじめて外交交渉を行ったという事実は、あまり知られていません。

寛政4（1792）年9月、アダム・ラクスマン率いるロシア使節は、鈴鹿市出身の船頭・大黒屋光太夫ら3名の日本人を伴って根室に来航しました。翌寛政5年、ラクスマンらは函館を経由して、松前へ入り、そこで江戸幕府の役人達と史上初の日露会談が開かれたのです。この会談では、光太夫達の身柄の引き渡しに加え、日露の通商開始についても話し合われました。

- 会 期 平成18年10月7日(土)～12月10日(日)  
月・金・第3火曜日休館（但し、11月3日は開館）
- 入場料 無料
- 主な展示品
- ・吹上秘書(北海道大学附属図書館北方資料室蔵)
  - ・北狄事略(北海道立文書館蔵)
  - ・函館渡来露船カテリナ号乗組員像(函館市中央図書館)
  - ・漂流人帰国松前堅之図(鈴鹿市蔵)など
- 主 催 鈴鹿市

